

ボランティア募集 & イベント情報

大掃除のポイントとコツ“伝授します”講座<無料>

ホームセンターの専門家に、手のかかる台所の換気扇や浴室の黒カビの掃除法を教えてください。参加者全員にお土産付き。  
 講師：島忠横浜店フロアマネジャー 向 裕之さん  
**【日時】** 12月1日(土)10:00~12:00  
**【会場】** 鶴見区福祉保健活動拠点多目的研修室(鶴見区社協内)  
**【定員】** 20人(先着順)  
**【申込】** 11月22日(木)までに鶴見区社協ボランティアセンター ☎ 504-5616か直接窓口へ  
**【問合せ】** ボランティアセンター(鶴見区社協内) ☎ 504-5625 mail: vc@yturumi-shakyo.jp

第32回新成人を祝うつどい・新成人ご招待

成人を迎える障害者とご家族に、成人を迎えられたことをお祝いします。また、来賓の方々に障害者の生活などを理解していただく場にもなっています。  
**【日時】** 31年2月3日(日)11:00~14:00  
**【会場】** 鶴見市場地域ケアプラザ ゆうづる  
**【対象】** 鶴見区在住・在勤の障害のある方(付添い2,000円/1人)  
**【申込】** 31年1月11日(金)までに鶴見区社協へ、☎ 504-5616かメール info@yturumi-shakyo.jp へ  
**【問合せ】** 鶴見区障害児者団体連合会 ☎ 582-8051または ☎ 080-6672-5206

鶴見で楽しむ講座受講生募集<全8回・無料>  
 -平成30年度鶴見・おもしろゼミナール-

町歩きや見学、落語などの講座を通じて、魅力ある鶴見をつくるためのまちづくりを学びましょう。  
 講師：廣瀬隆人さん(宇都宮大学生涯学習教育研究センター教授)  
**【日時】** 12月14・21日、1月11日、2月1・15日、3月1・15日の金曜13:30~16:00(7回講義、その他、1月中に1回見学会)  
**【会場】** 鶴見区役所、鶴見区福祉保健活動拠点、鶴見中央コミュニティハウスほか  
**【対象・定員】** 鶴見区在住・在勤の方30人(全8回参加できる方優先・多数抽選)  
**【申込】** 11月30日(金)までに氏名・住所・連絡用電話番号を郵送・FAX・メールで 〒230-0051 鶴見区鶴見中央3-20-1 鶴見区区政推進課地域力推進担当 ☎ 504-7102 mail: tr-chiikiriyoku@city.yokohama.jp

【ガイドボランティア募集】

鶴見区社協では、障害のある方の付添いを行うガイドボランティアを募集しています(中面記事参考)。ボランティアに対しては奨励金(1回500円、ガイド開始または終了地点まで交通費がかかる場合1,000円)が支払われます。  
 関心のある方は鶴見区社協移動情報センター ☎ 504-5050 (月~金曜の9:00~17:00、祝日・年末年始を除く)へお問い合わせください。

善意銀行寄付者

くらしに、まちに、あなたのお金が生きている

30年4月1日~8月31日受付分。  
 ( )は期間中の寄付回数

金銭寄付者(敬称略・順不同) ●中島明高 ●小野輝子 ●松緑神道大和山横浜教区婦人会 ●鶴見消防署生麦消防出張所 ●東寺尾商品開発部 ●横浜市生麦地区センター「チャリティーダンスパーティー」 ●前川和彦(4) ●匿名(5)  
 物品寄付者(敬称略) ●パチンコ吉兆グループ(4)

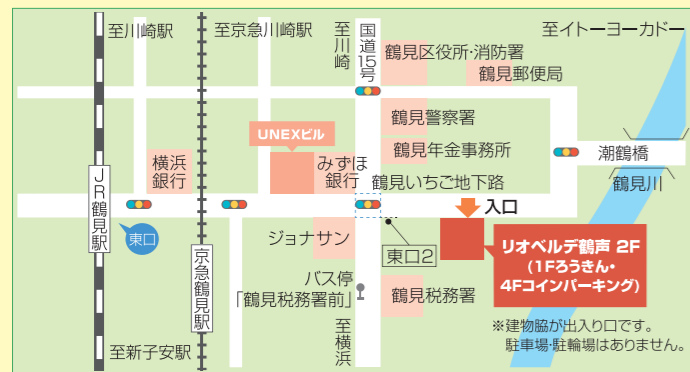
寄付の方法

①区社協窓口への持参(月~土 9時~17時)  
 ②銀行振込  
 ★物品寄付についてもご相談ください。

振込先

横浜信用金庫 鶴見駅東口支店 普通042900  
 社会福祉法人 横浜市鶴見区社会福祉協議会  
 善意銀行 鍋木 克芳(カブラギ カツヨシ)

鶴見区社協より <http://www.yturumi-shakyo.jp/>



「表紙クイズ」&愛読者アンケート

表紙の写真を見てピンときた方、ご応募ください。応募は、はがき・FAX・Eメールで、①表紙のクイズの回答②郵便番号・住所・氏名・電話・性別・年齢③福祉つるみを手に入れた場所④ご意見・ご感想を記入の上、10月31日(必着)までに鶴見区社協「アンケート係」へ。  
 当選は賞品の発送をもって代えさせていただきます。前号タウンニュース版のクイズの正解は②ふれーゆ、応募者数は3名でした。区社協ホームページにクイズのヒントがあります。ぜひアクセスを。  
 ※「表紙クイズ」応募に関わる個人情報は、当選者への賞品発送と「福祉つるみ」紙面作成の参考にも利用いたします。

QUO  
 カード  
 プレゼント!

鶴見区社会福祉協議会

〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央4-37-37 リオベルデ鶴声(かくせい)2階  
 ☎ 504-5619 ☎ 504-5616 Eメール: info@yturumi-shakyo.jp

編集委員 / 岩本 登・鶴田良子・蔵本美佐子・桑島主税・佐藤智宏

福祉 つるみ 88

点字・録音版も!

【第88号】2018年10月1日発行 / 編集・発行◇社会福祉法人 横浜市鶴見区社会福祉協議会 TEL.045-504-5619 FAX.045-504-5616



特集

ある日、鶴見で

働く  
 遊ぶ  
 学ぶ

ここは鶴見のどこの空?

応募方法はウラ表紙をご覧ください

表紙クイズ

江戸時代の農村生活の原風景...

①馬場花木園 ②東寺尾ふれあいの樹林 ③獅子ヶ谷横溝屋敷

撮影:武藤伯晃(2018年8月)

# 特集 / ある日、鶴見で **働く・遊ぶ・学ぶ**

仕事。遊び。自分のための勉強、経験…  
ある日、鶴見で、活躍するいろいろな人に出会いました。  
きょうもまた、きっと明日も。

## 働く

### 『福祉つるみ』をポスティングして区民に届けています ◆よこはま東部ユースプラザを利用するみなさん◆

よこはま東部ユースプラザ(東プラ)に通うSさんは、企業のチラシや『福祉つるみ』を指定された地域の対象住居にポスティングする心構えを「ちゃんと(一戸に一枚・一部ずつ)届けるようにいつも気をつけています」と話してくれました。

数百部をバッグに入れて担当地区に向かい、現場に着くと配布しやすいよう数十戸分を手を持って回ります。ポスティング作業と知らずに「何を入れているんだ?」と声をかけられた時は同行する東プラの職員が説明をし、理解を得る努力をします。初めのうちはこ



わかった、というSさん。依頼を受けた印刷物を確実に届けるためなら「(人から何をしていますんだ)と言われてもいいかな、って気になってきました」と笑います。

チームワークがポスティングの一番のコツ。Sさんはじめこの日の作業は、その良さが表れて順調に進みました。※『福祉つるみ』今号も東プラポスティングチームによって配布されます。

◆よこはま東部ユースプラザ 困難を抱える若者(15~39歳)の社会参加に向けた最初の一步を支援する施設。横浜市補助事業として、認定NPO法人育て上げネットが運営。  
★鶴見区鶴見中央3-23-8 ☎642-7001

## 遊ぶ

### 月に一度、話して、歌って、ゲームして ◆てらおよるカラクラブ(寺尾地区センター)◆

寺尾地区センターの大広間は毎月第2金曜の夜、気の置けない仲間やボランティアが三々五々集まってにぎやかな空間になります。「てらおよるカラクラブ」は今年4月に10周年を迎えました。地域の人や学生など毎回ボランティアの顔ぶれは異なりますが、クラブのメンバーはほぼ顔なじみ。集まれば始まるおしゃべり。グループホームでの生活、職場の人間関係、仕事の

苦勞、仲間の近況など話題は尽きません。

カラオケが始まったのは午後7時過ぎ。感情を込めて歌うノゾミさんがマイクを握ります。曲は続き、仲間の歌に合わせて



▲この日の集まりには横浜商科大学の学生がボランティアとして参加した



▲熱唱を尻目に、ゲームで盛り上がる参加者

見事なダンスを披露する参加者もいます。かと思えば、歌を聴きながらゲームを始めたり、おしゃべりで盛り上がり…。

クラブ運営を支援する一人、寺尾地域ケアプラザ地域活動交流コーディネーターの尾崎文子さんは「ご覧のように歌あり、ゲームあり、おしゃべりありの時間です。今夜は横浜商科大学の学生ボランティアの参加で楽しそうです」と話していました。

◆てらおよるカラクラブ 参加対象は、鶴見区在住・在勤の知的障害のある18歳以上の方、寺尾センターまで自分で往復できる方。寺尾センター内にある大広間(老人福祉センター鶴寿荘)で、カラオケ・食事(持参)ができる。仕事や活動帰りに立ち寄ってみませんか?という呼びかけで、平成21年1月から始まった。クラブ名には、よる=「夜」と「寄る」、カラ=「カラオケ」と「夜から集まる」の意味を込めた。

## 働く

### ピザ・カレー、スイーツ+笑顔=おいしいです! ◆豊岡「カフェこっとーね」◆

手づくりのピザやカレー、スイーツ類が人気を集め、たびたび売り切れになる「カフェこっとーね」。調理担当の今井咲季(さき)さんはこっとーね開店と同時に働きはじめて6年、ホールスタッフの窪田和真さんは4年、すっかりお店の顔になりました。ふたりはワークトレーニングハウスで部品作りなどの軽作業を行うかたわら、こっとーねのスタッフとして料理を作り、接客を行います。

20人くらいの予約が入ると「仲間と手分けして作るのですが、サラダやスープの準備は大変です」と今井さん。窪田さんは「おいしく味わっていただくために、料理のテーブルの置き方などを工夫しています」



▲職員の近藤正代さん(中央)とちょっと打合せ…



▲人気のピザとケーキ



▲窪田和真さんと今井咲季さん

と、苦勞やおもてなしのコツを話してくれました。

制服姿が板に付き、厨房・ホールの10人近い仲間と働く楽しさを知った今井さんと窪田さん。鶴見ワークトレーニングハウスの施設長や職員、多くのお客さんに見守られながらの日々。「ずっとこの仕事を続けていきたいです」と口を揃えています。

◆カフェこっとーね 障害者就労支援型施設 鶴見ワークトレーニングハウス(☎582-8055 横浜社会福祉協会)が運営している。「模擬会社形態」を取り入れた作業プログラムを通じて仕事をしながら働く姿勢、人間関係を身につけることができる。  
★鶴見区豊岡町28-4ハーモニーとよおか1階 ☎582-8029

## 学ぶ

### 手をしっかりと握って「行ってきま〜す」 ◆小学生の登校に付き添うガイドボランティア◆



▲四ツ谷さんと学校に向うのんちゃん

のんちゃんは小学1年生。興味があるものを見つけると走り出してしまうことがあります。学校までは自宅から10分ほどですが、お母さんはひとりでの登校に不安を感じ、区社協に相談しました。区社協移動情報センターで調整をし、近所の方3人がガイドボランティア(ガイボラ)として週5日、交代でのんちゃんに付き添うことになりました。この日のガイボラは四ツ谷妙子さん。ガイボラに興味があって応募、講座・研修・トライアルを経てガイボラ登録~活動を始め間もなく6か月になります。四ツ谷さんはのんちゃんの家のある地域に住んでいるため、仕事や子育てがあっ

ても活動しやすいと言います。最初のうちは言葉も少なく、緊張気味だったのんちゃん。慣れてくるにつれて登校中の会話が増えました。夏休みが終わって最初の付き添いの日、四ツ谷さんはのんちゃんの成長に目を細めました。

のんちゃんを家の前で迎えると、のんちゃんはお母さんに行ってきま〜すと言って四ツ谷さんと手を握り、学校に向いました。のんちゃんのお母さんは「双子の妹の子育てもあって、登校に付き添ってくださるガイボラの方々には助かっています」と話していました。

◆ガイドボランティア 障害のある方の外出に付き添うボランティアです。18歳以上であればどなたでも登録・活動ができます。詳しくは、裏面の【ガイドボランティア募集】をご覧ください。



▲四ツ谷さんと移動情報センター職員の齋藤 政一さん